

諏訪之瀬島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ＞

御岳^{おたけ}火口では、噴火活動が活発化しています。

御岳火口では、本日（28日）02時48分に発生した爆発に伴い、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から南東方向に約1.3kmまで飛散しました。

諏訪之瀬島では火山活動が高まっていることから、本日（28日）02時56分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

【防災上の警戒事項等】

御岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

○ 活動概況（図2～6）

御岳^{おたけ}火口では、本日（28日）02時48分に発生した爆発に伴い、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から南東方向に約1.3kmまで飛散しました。噴煙は火口縁上200mまで上がり、雲に入りました。

諏訪之瀬島では10月下旬から噴火活動に活発化の傾向がみられる中で、12月21日から爆発が増加しており、21日から本日（28日）04時までに423回（速報値）発生しています。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 諏訪之瀬島 警戒が必要な範囲

御岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。



図2 諏訪之瀬島 噴火の状況（12月28日、寄木監視カメラ）

本日（28日）02時48分の爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から南東方向に1.3kmまで飛散しました（白矢印）。

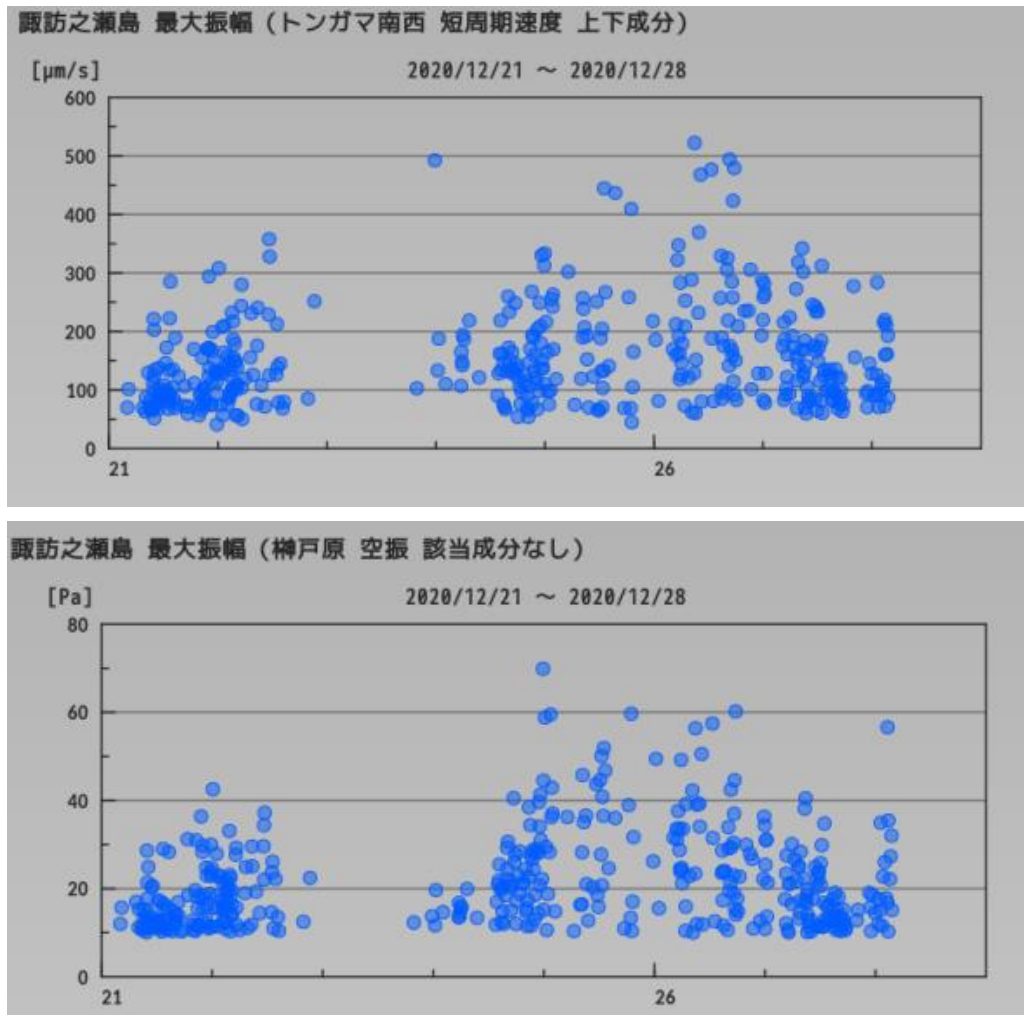


図3 諏訪之瀬島 爆発地震の振幅（上図：トンガマ南西観測点UD）、空振の振幅（下図：榑戸原観測点）（2020年12月1日～2020年12月28日03時）

12月21日から爆発が増加しています。21日からの空振の振幅の最大は榑戸原観測点で69.9 Paでした。

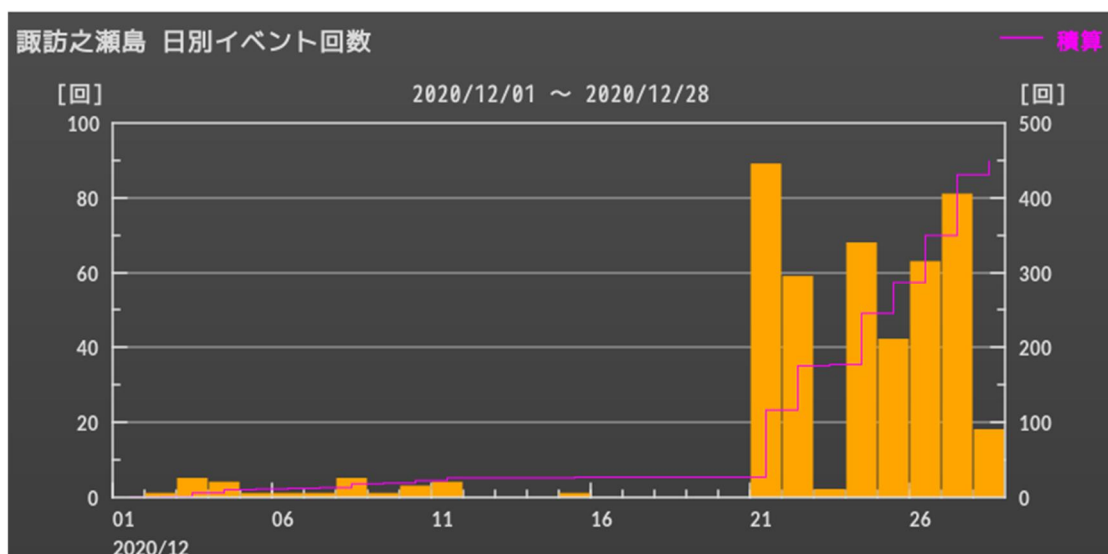


図4 諏訪之瀬島 爆発の日別回数と積算（2020年12月1日～28日04時）

12月21日から爆発が増加しており、21日から本日04時までに423回（速報値、赤色線）発生しています。

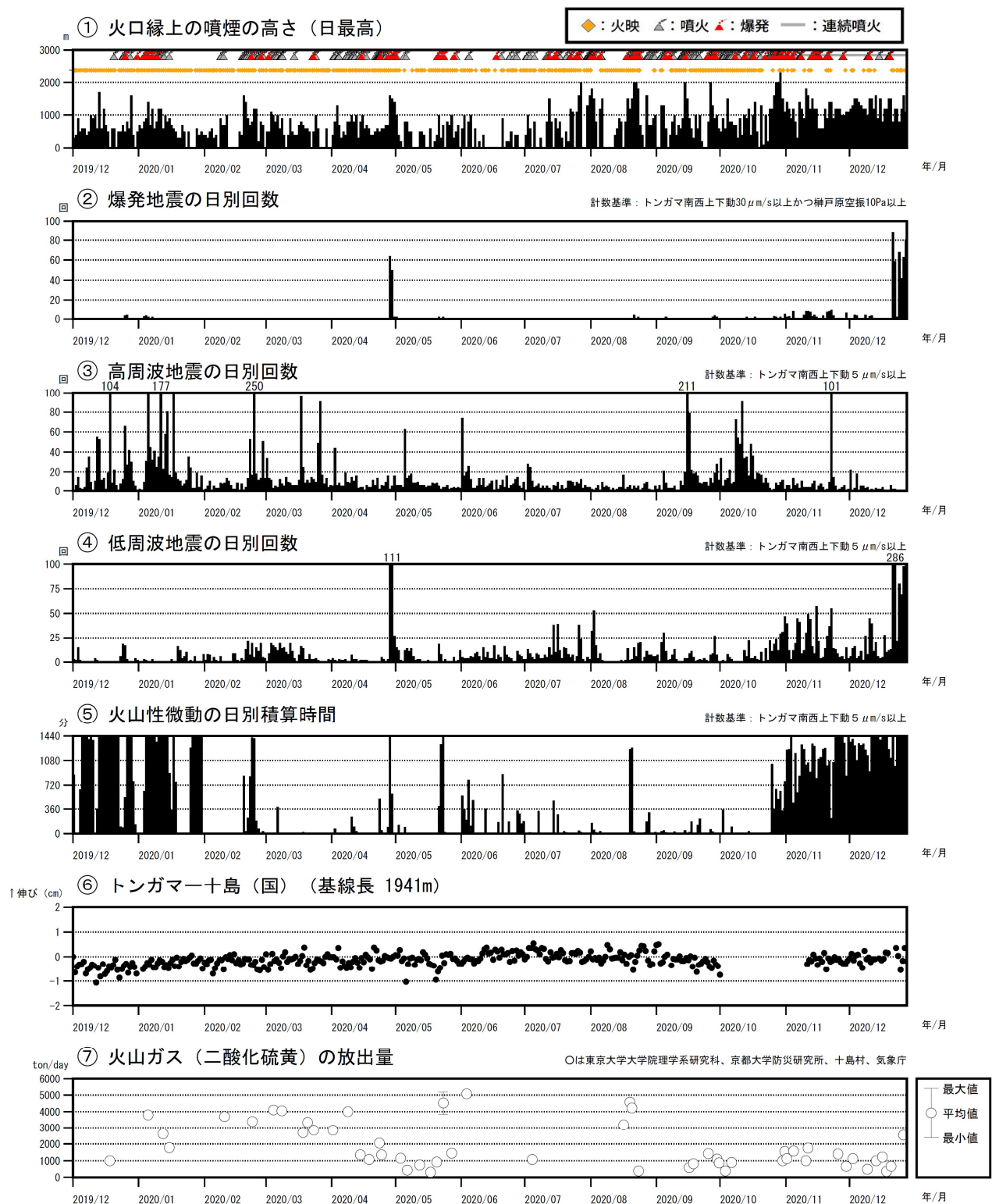


図5 諏訪之瀬島 最近の火山活動経過図（2019年12月～2020年12月27日（速報値））

- ・12月21日から爆発が増加しています。
- ・火山性微動は主に噴火に伴って発生しています。
- ・GNSS 連続観測では、島内の基線で2019年12月頃から、わずかな伸びがみられていましたが、2020年9月頃から停滞しています。
- ・12月以降、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり400～1,200トンとやや多い状態で経過しています。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁は2019年12月より火山ガス（二酸化硫黄）放出量の観測を始めました。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

⑥の基線は図6の①に対応しています。

